

決算説明資料

2022年3月期 第1四半期

株式会社ユビキタスAIコーポレーション

代表取締役社長 長谷川 聡

2021年8月13日

Index

- 第1四半期業績 概要
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- トピックス

第 1 四半期業績 概要

第1四半期（累計期間）概況

業 績

- ・ 対前年（21/3期）比で売上高・営業利益ともに増加、但し、当四半期もコロナ禍の影響等により、20/3期比の水準までは回復せず
 - 連結売上高：402百万円（21/3同期比 27.9%増、20/3同期比 20.5%減）
 - 連結営業損失：△75百万円（21/3同期 営業損失158百万円、20/3年同期 営業損失31百万円）

セグメント別概況

ソフトウェア プロダクト事業	売上高 営業利益	141百万円 11百万円	高速起動は車載機器関連のロイヤルティが復調、データベースは産業系のロイヤルティが増加したことで対前年同期比で売上増
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高 営業損失	193百万円 82百万円	既存顧客からのロイヤルティ増加により対前年同期比で売上増
ソフトウェア サービス事業	売上高 営業損失	67百万円 4百万円	車載機器関連のコンテンツライセンスが増加、受託開発案件も順調に推移し、対前年同期比で売上増

セグメント利益 算定方法変更

■ ユビキタスAIコーポレーションの2事業のセグメント利益算定方法を変更

- 経緯
 - 旧株式会社エーアイコーポレーション合併（18年7月）以降、共通部門の一本化を推進
- 共通部門費用を配賦
 - 共通部門費用－営業部門、マーケティング&コミュニケーション部門、管理部門の人件費及び部門費用
 - 配賦比率－22年3月期の期初予算における売上・粗利等を考慮し、1：1の比率に是正

■ セグメント利益算定方法変更による影響額

（単位：百万円）

		22/3期 1Q			21/3期 1Q			増減額		20/3期 1Q			増減額	
		従前の 収支	共通 部門費 を是正	新収支	従前の 収支	共通 部門費 を是正	新収支	従前の 収支	新収支	従前の 収支	共通 部門費 を是正	新収支	従前の 収支	新収支
ソフトウェアプロダクト事業	売 上 高	141		141	95		95	46	46	150		150	△8	△8
	セグメント利益	△2	13	11	△42	15	△27	40	38	14	17	32	△17	△21
ソフトウェア ディストリビューション事業	売 上 高	193		193	164		164	28	28	270		270	△76	△76
	セグメント利益	△68	△13	△82	△59	△15	△74	△9	△7	△9	△17	△27	△59	△54
ソフトウェアサービス事業	売 上 高	67		67	54		54	13	13	86		86	△18	△18
	セグメント利益	△4		△4	△3		△3	△1	△1	15		15	△19	△19

（注）21/3期及び20/3期のセグメント利益は、比較利便性を考慮して、のれん償却前営業利益を表示し、配賦比率も22/3期と同率として算定しております。

前年同期比:セグメント及び製品分野別売上高

(単位:百万円)

セグメント	分野	22/3期 1Q (連結)	21/3期 1Q (連結)	増減率	20/3期 1Q (連結)	増減率
ソフトウェア プロダクト事業	コネクティビティ&セキュリティ	12	11	5.9	31	△61.7
	高 速 起 動	98	66	47.3	95	3.0
	デ ー タ ベ ー ス	31	17	79.9	23	34.4
	小計	141	95	48.3	150	△5.7
ソフトウェアディストリビューション事業		193	164	17.4	270	△28.4
ソフトウェアサービス事業		67	54	24.2	86	△21.5
合計		402	314	27.9	506	△20.5

前年同期比:セグメント別売上及び利益

(単位:百万円)

		22/3期 1Q (連結)	21/3期 1Q (連結)	増減額	20/3期 1Q (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	141	95	46	150	△8
	セグメント利益	11	△27	38	32	△21
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	193	164	28	270	△76
	セグメント利益	△82	※1 △101	19	※1 △53	△28
ソフトウェアサービス事業	売上高	67	54	13	86	△18
	セグメント利益	△4	※2 △29	24	※2 △11	△45
合計	売上高	402	314	87	506	△103
	セグメント利益	△75	※3 △158	82	※3 △31	△43

(注) ※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 26百万円を含めております。

※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 25百万円を含めております。

※3 上記ののれんの償却額 52百万円を含めております。

前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前利益

(単位: 百万円)

		22/3期 1Q (連結)	21/3期 1Q (連結)	増減額	20/3期 1Q (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売 上 高	141	95	46	150	△8
	セグメント利益	11	△27	38	32	△21
ソフトウェア ディストリビューション事業	売 上 高	193	164	28	270	△76
	セグメント利益	△82	※1 △74	△7	※1 △27	△54
ソフトウェアサービス事業	売 上 高	67	54	13	86	△18
	セグメント利益	△4	※2 △3	△1	※2 15	△19
合計	売 上 高	402	314	87	506	△103
	セグメント利益	△75	※3 △105	29	※3 20	△96

(注) 22/3期との比較利便性を考慮し、

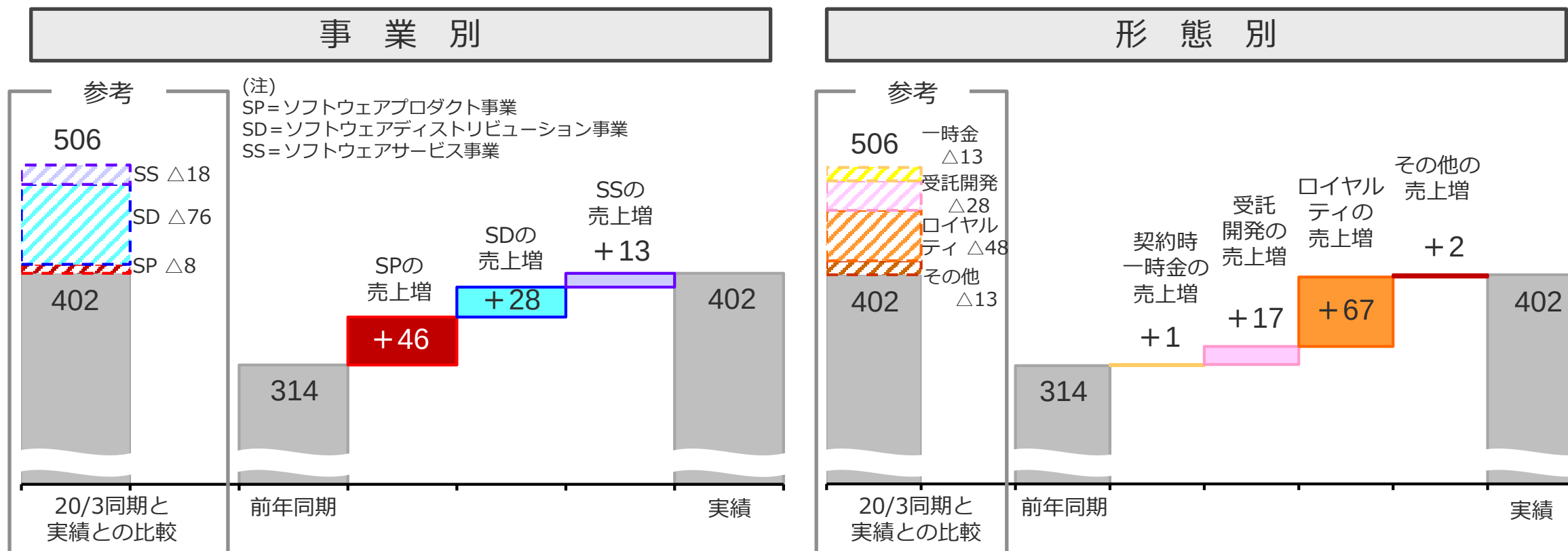
※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 26百万円を含めておりません。

※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 25百万円を含めておりません。

※3 上記ののれんの償却額 52百万円を含めておりません。

前年同期比：売上高

(単位：百万円)

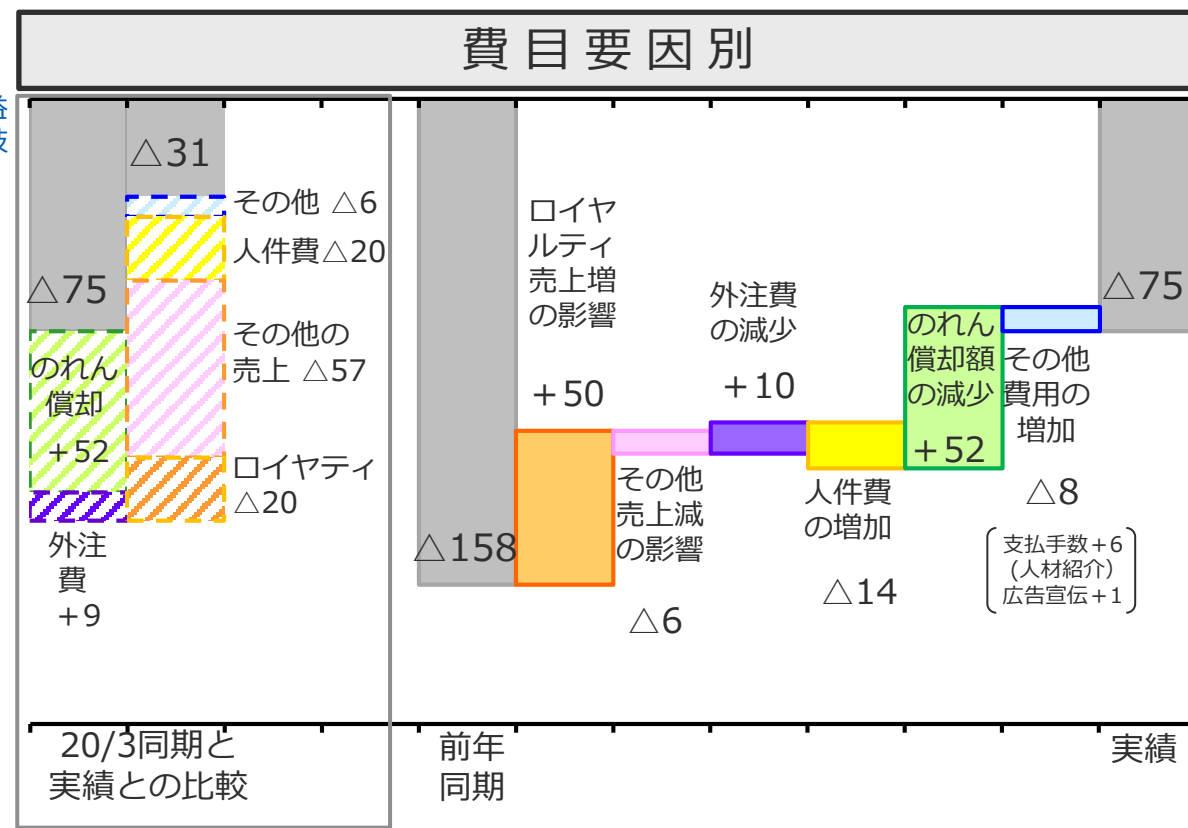
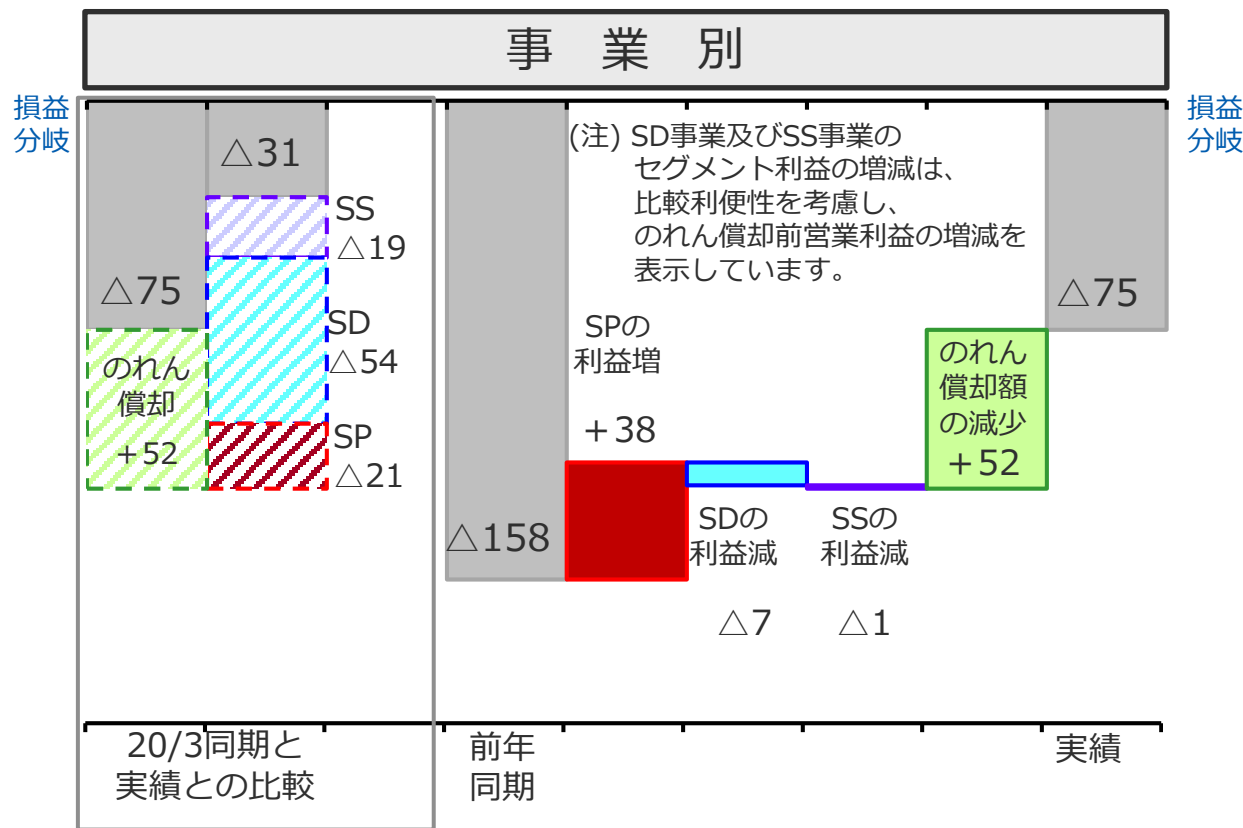


■売上高：21/3期比は増加となるも、コロナ禍前の20/3期の水準までは回復せず

- SP事業：高速起動は主に車載機器関連、データベースは産業系のロイヤルティが前年増となるも、コネクティビティ & セキュリティ関連受託開発のSS事業への移管による減少分を吸収できず
- SD事業：ワイヤレス製品やノートブックPC関連を中心にロイヤルティが前年増となるも、20/3期の水準までは回復せず
- SS事業：主に車載機器関連のコンテンツライセンス、受託開発案件が前年増となるも、20/3期の水準までは回復せず

前年同期比：営業利益

(単位：百万円)



■ 21/3期比は増加となるも、コロナ禍前の20/3期の水準には戻らず

- ・ 主にSP事業のロイヤルティ売上増加、及びのれん償却終了により、営業利益が前年増となるも、その他売上減の影響を受けて20/3期の水準には戻らず

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2022/3期 1Q	2021/3期 1Q	増減	2020/3期 1Q	増減
売上高	402	314	87	506	△103
売上原価	247	209	38	281	△33
売上総利益	155	105	49	225	△70
販管費	230	263	△32	257	△26
営業利益	△75	△158	82	△31	△43
営業外損益	6	2	3	1	4
経常利益	△69	△155	86	△30	△38
特別損益	-	-	-	-	-
法人税等	11	23	△12	5	6
四半期純利益※	△80	△179	98	△35	△45

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

	2021/6月末	2021/3月末	増減
現金・預金	877	828	48
受取手形・売掛金	-	676	△676
受取手形・売掛金・契約資産	402	-	402
有価証券	900	800	100
棚卸資産	7	5	1
前払費用	49	46	2
その他流動資産	32	56	△24
流動資産	2,269	2,414	△145
固定資産	385	393	△7
資産合計	2,654	2,807	△153

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

	2021/6月末	2021/3月末	増減
買掛金	76	131	△55
未払金	16	47	△30
前受金	-	73	△73
契約負債	74	-	74
その他流動負債	63	46	17
流動負債	231	298	△67
固定負債	80	80	0
資本金	1,483	1,483	-
資本剰余金	1,453	1,453	-
利益剰余金	△667	△586	△80
その他純資産	73	78	△4
純資産	2,343	2,429	△85
負債・純資産合計	2,654	2,807	△153

通期業績予想（連結）に対する進捗

（単位：百万円）

	通期 業績予想	第1四半期 実績	進捗率（%）
売上高	2,196	402	18.3
営業利益	80	△75	—
経常利益	80	△69	—
純利益	57	△68	—

セグメント及び 製品分野別動向と取り組み

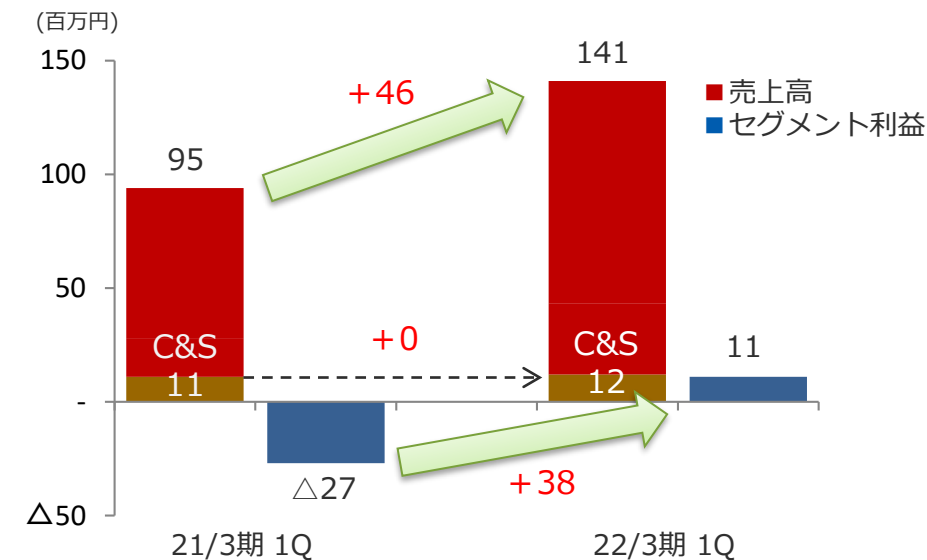
コネクティビティ & セキュリティ関連

■ 当四半期概況

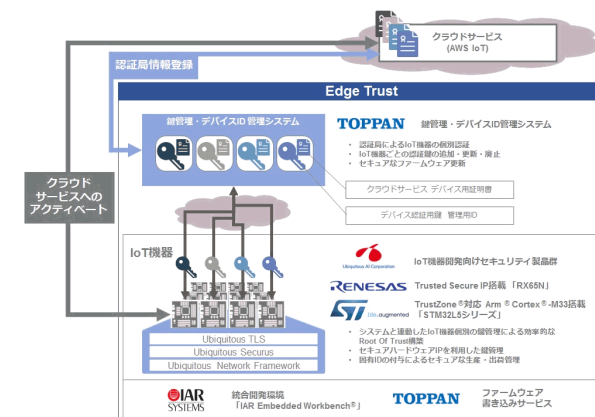
- IoT機器へのセキュリティ実装関連の研究開発案件で売上を計上
- デジタルイメージング関連の既存顧客からのロイヤルティ売上を計上
- HEMS関連の既存顧客から新製品開発案件で売上を計上
- 「Edge Trust」で使用しているIoT機器のライフサイクルマネジメントに関するセキュリティ技術について、特許を取得

■ 取組方向性

- 「Edge Trust」を中心に、IoTセキュリティ分野での事業展開を加速するため半導体デバイスからクラウドまでの幅広い分野のパートナーとの連携を強化
- 「HDCP/DTCP」「Securus」によるデジタルコンテンツ伝送及び保護技術の車載 IVI 分野向けビジネスの拡大



(注) グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、コネクティビティ & セキュリティ関連のみの売上・利益です。



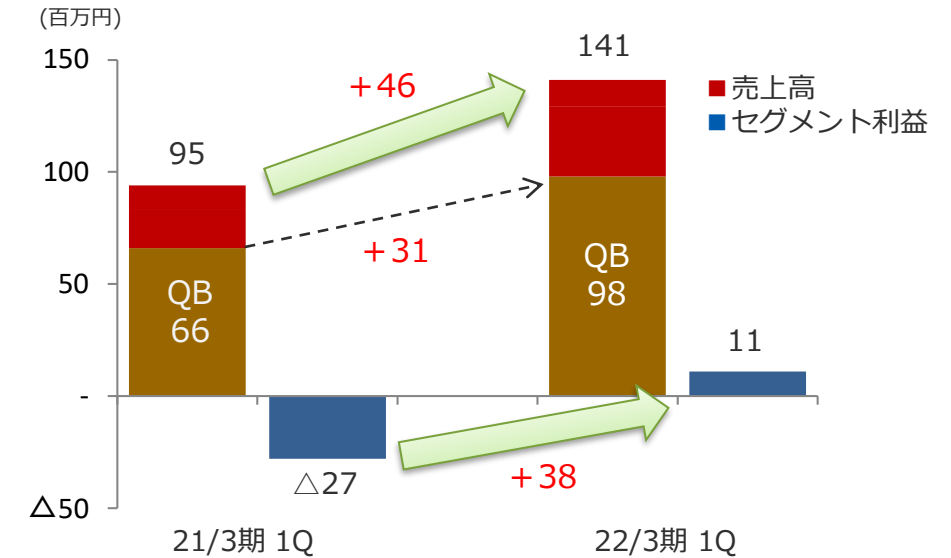
ソフトウェアプロダクト事業 高速起動関連

■ 当四半期概況

- ・国内外の車載機器関連、海外民生機器の既存顧客からのロイヤルティ売上を計上
- ・カーナビ等車載向け機器を中心に複数社との間で大・中規模の開発案件が継続中
- ・Linux/Android高速起動ソリューション「Ubiquitous QuickBoot」の2021年5月末時点での累計出荷ライセンス数が全世界で5,000万本を突破

■ 取組方向性

- ・海外市場向けの販売を強化
- ・車載情報端末以外の車載機器向けの拡販を強化
- ・電源断対応ファイルシステムや仮想化技術、セキュアブート等の機能を組み合わせ、高付加価値ソリューション化、クロスセルを推進
- ・次世代技術開発の継続



(注) グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、高速起動関連のみの売上・利益です。



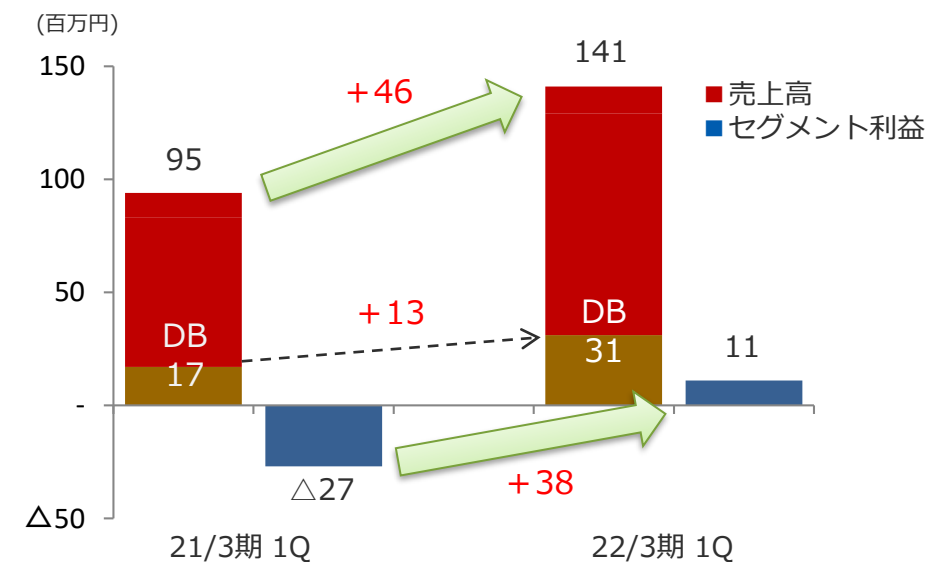
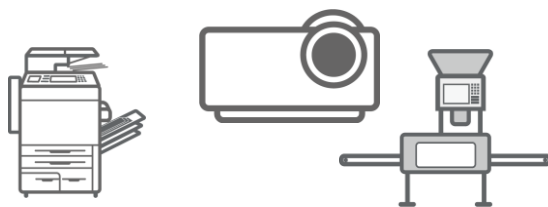
ソフトウェアプロダクト事業 データベース関連

■ 当四半期概況

- 産業機器等の既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上

■ 取組方向性

- 既存顧客のサポートによる安定収益の確保
- 車載機器、OA機器、検査機器、産業機器等に向けた拡販



(注) グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、データベース関連のみの売上です。

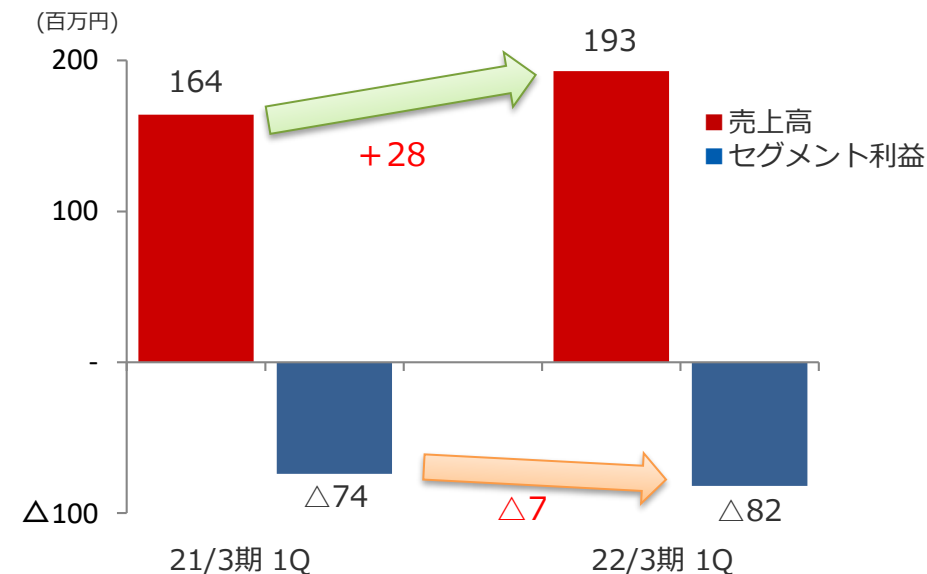
ソフトウェアディストリビューション事業

■ 当四半期概況

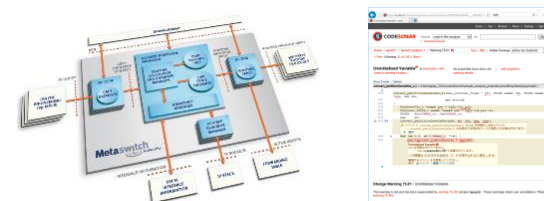
- BIOS製品：
ノートブックPCの既存顧客から「Insyde H2O® *1」のロイヤルティ売上等を計上
- 品質向上支援ツール製品：
車載機器、産業機器等の既存顧客から「CodeSonar *2」のライセンス売上等を計上
- ワイヤレス製品：
車載機器等の既存顧客から「Blue SDK *3」のロイヤルティ売上等を計上
- AIソリューション製品：
車載機器の既存顧客から「CoDriver *4」のロイヤルティ売上等を計上
- その他：
多数の取扱い製品より、新規、既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上

■ 取組方向性

- コロナ禍によるニーズの変化に対応した製品・技術の発掘
- 市場性のある海外ベンダーの商権の獲得
- 先期開発・獲得した新規商材の販売強化
- 年間利用ライセンス契約により収益安定への貢献度が高いソフトウェア品質向上支援等のツール製品を重点的に販売促進



(注) 前年同期のセグメント利益は、比較利便性を考慮し、のれん償却前営業利益の増減を表示しています。



- *1 Insyde H2O®: 「EFI/UEFI」仕様を実装したC言語ベースBIOS
- *2 CodeSonar: ソフトウェアの動作不具合、脆弱性をソースコードのコンパイル時に静的解析し、バグを検出するツール
- *3 BlueSDK: Bluetoothプロトコルスタック
- *4 CoDriver: ドライバーモニタリングシステム

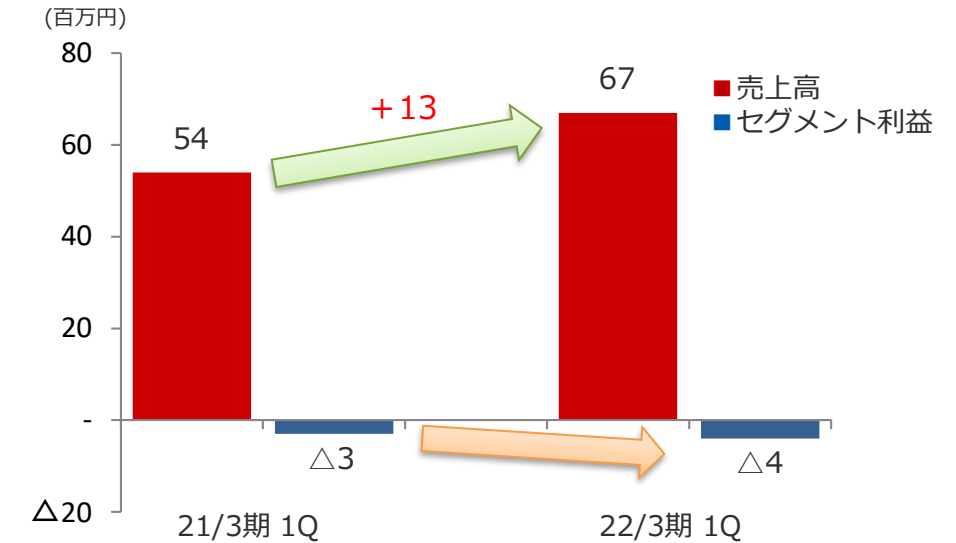
ソフトウェアサービス事業

■ 当四半期概況

- ・ 既存顧客からの各種受託開発売上を計上
- ・ データコンテンツ「YOMI」に関する車載機器向けを中心としたライセンス使用料売上等を計上

■ 取組方向性

- ・ 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的な確保と、協業提案による新たな取り組み
- ・ 既存顧客・パートナー案件に加え、グループの製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現



(注) 前年同期のセグメント利益は、比較利便性を考慮し、のれん償却前営業利益の増減を表示しています。



YOMIデータの活用例：アーティスト名ソート

アーティスト表記	YOMI
さだまさし	サガマサシ
サザンオールスターズ	サザンオールスターズ
L'Arc-en-Ciel	ラルクアンシエル
松任谷由実	マツトウヤユミ

アーティスト表記でソート		YOMIでソート	
ソート順位	アーティスト表記	ソート順位	YOMI
1	L'Arc-en-Ciel	1	サザンオールスターズ
2	サザンオールスターズ	2	さだまさし
3	さだまさし	3	松任谷由実
4	松任谷由実	4	L'Arc-en-Ciel

トピックス

「Ubiquitous QuickBoot」累計出荷数5,000万本突破 (6/14)

海外での採用が進み、過去一年間の出荷数が1,200万本超と急速に伸長

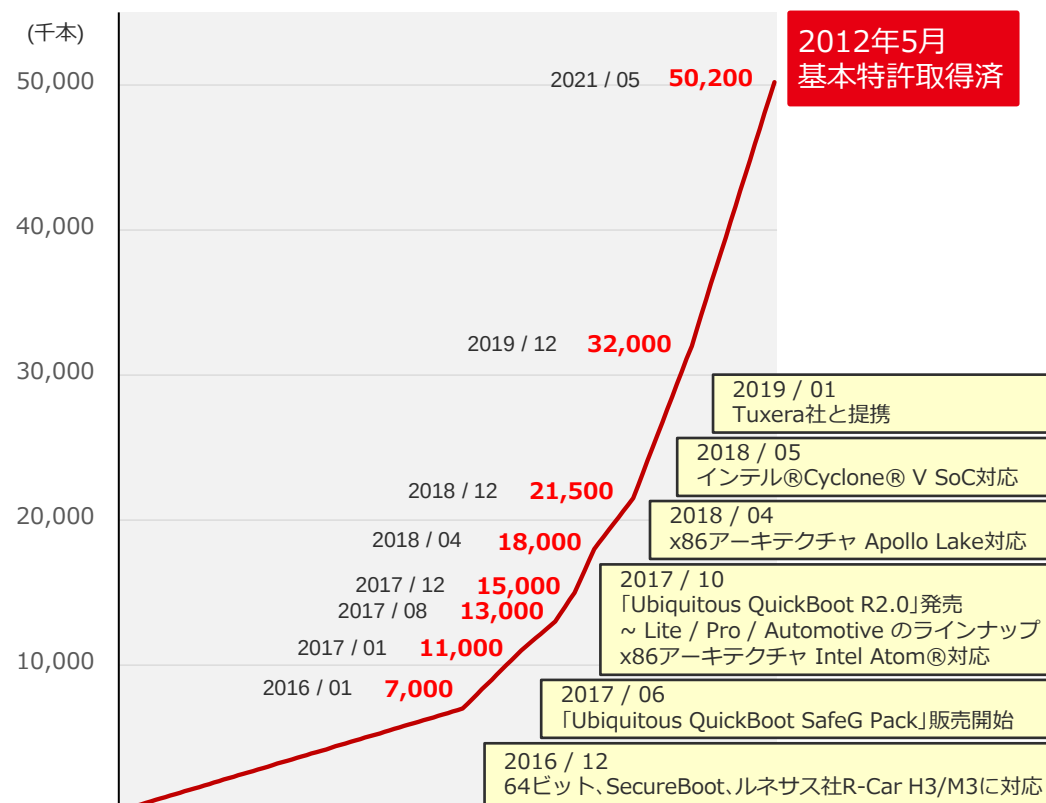
■製品概要

- 当社が独自に開発したシステムの高速起動ソリューション
- 機器の起動時間を簡単に高速化、省電力と快適なユーザーエクスペリエンスの実現を支援

導入効果と
アプリケーション例

導入効果	アプリケーション例
記録・監視など、各種処理をすばやく開始	 監視カメラ  デジカメ  ドライブレコーダー
ユーザーの起動待ちストレスを軽減	 カーナビ  テレビ  パソコン、各種操作車
すぐ起動できるから、待機電力ゼロでの運用が可能	 モバイルルーター  電子ブック  複合機、プリンタ
製品検査時の1台あたり検査時間短縮で生産性向上	 検査治具  製品の生産

■累積ライセンス数の遷移



「Edge Trust」の基盤技術の特許査定を取得（6/15）

IoT機器のライフサイクルを通じたセキュリティを実現する技術、特許取得へ

■特許の具体的内容

- IoT機器がクラウドサービスを安全に利用するために発行された「デバイス用証明書」を、クラウドサービスの利用終了時やIoT機器の廃棄時にIoT機器自体が自動的に消去（ディアクティベーション）する技術

■特許査定概要

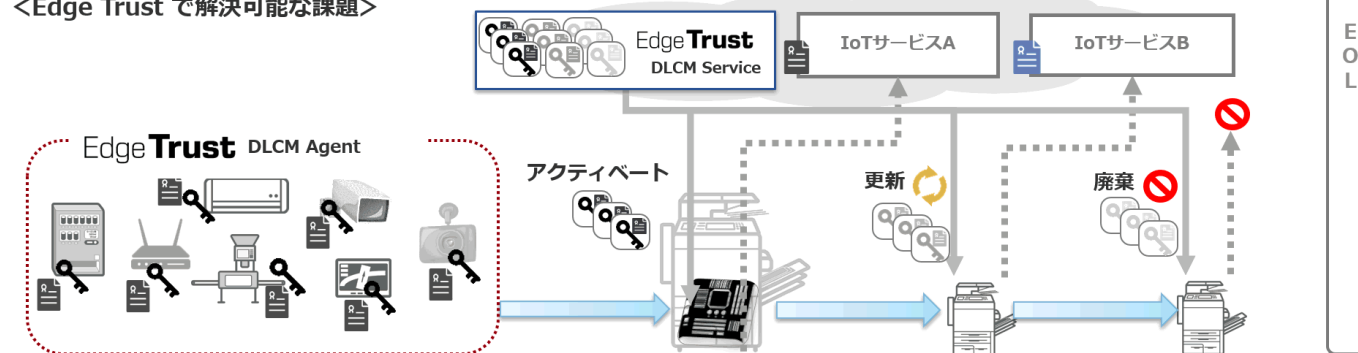
- 特許出願番号
特願2019-108731（P2019-108731）
- 発明の名称
情報処理装置およびその制御プログラム
- 特許出願人
当社、凸版印刷株式会社

Edge TrustによるIoT機器のライフサイクル管理

IoT 機器のライフサイクル

企画	開発	製造	利用開始	保守 メンテナンス	利用停止 リユース・廃棄
- セキュリティベストプラクティス、関連規格などを考慮した安全な実装 - システムと連携するRoot Of Trust構築 - セキュアハードウェアを活用した秘匿情報管理	- 機器固有情報の書き込み - 固有IDによる生産出荷管理	IoT 機器のクラウドサービス接続に必要な認証処理・機器登録	- IoT機器の利用状況に応じたデバイスマネジメント - 固有IDと証明書によるユーザー管理と接続管理 - サービスの接続条件に応じた証明書の更新・削除 - セキュアなファームウェア更新		

<Edge Trust で解決可能な課題>



Appendix

2022年3月期 第1四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第1四半期	6月14日	■ ユビキタスAI、Linux®/Android™高速起動ソリューション「Ubiquitous QuickBoot」累計出荷数 5,000万本を突破 ～車載情報機器での導入が堅調に推移、海外向け出荷が伸長～
	6月15日	■ ユビキタスAI、凸版印刷と「Edge Trust」の基盤技術の特許査定を取得 ～IoT機器のライフサイクルを通じたセキュリティを実現する技術、特許取得へ～

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation